

平成 29 年度

# 入 学 試 験 問 題

帰 国 生

## 国 語

- 1 問題用紙は監督者<sup>かんとくしゃ</sup>の指示があるまでは開いてはいけません。
- 2 開始のチャイムが鳴ったら、最初に問題用紙と解答用紙に受験番号と氏名を記入して下さい。
- 3 答えはすべて解答用紙に記入して下さい。
- 4 記述で答える問題は、特に指定のない場合、句読点<sup>くとうてん</sup>や符号<sup>ふごう</sup>は一字として数えるものとします。
- 5 問題は 1 ページから 14 ページまであります。

受 験 番 号		氏  名	
------------------	--	------------	--

森村学園中等部

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私たちは、自然災害や人工物のもたらす危険だけでなく、社会自体のなかに含まれている不安の原因をも背負い込んで生きていくということになります。

そのことは、結局先ほど後回しにした問題、「安全」と「危険」、「安心」と「不安」という構図のなかにある区別や意味を少しはつきりさせなければならぬところへ、私たちを誘います。言い換えれば、危険が除かれ安全になったからと言って、必ずしも安心は得られない、ということにもなります。例えば、先ほど触れた「\*杞憂」という\*概念は、まさしくこの点を衝いていきます。誰でも天が崩れ落ちるといふ「危険」の可能性をまともに考えません。それでも、問題の杞の人の「不安」を取り除くことはできないのでしよう。

日本の現場で、①このことが最も\*顕著に表れているのが原子力の世界ではないでしょうか。原子力発電の世界では、日本の現場の\*サイトで死者は一人も出していません。もともとのサイトで死者が皆無である、というのは間違いです。

○年八月には北海道電力の泊発電所で、作業員の方が亡くなっています。しかし、これは定期点検中に、あるタンク内で清掃作業に従事していた作業員が梯子から転落して助からなかったケースで、もちろんこうした事故をも防ぐ努力は積み重ねられなければならないかもしれませんが、こうした事故は原子力発電所以外のあらゆるサイトで起こり得ることで、原子力産業特有のものではありません。②二〇〇四年に起こった美浜事故もまた同様です。

しかし、\*JCOの事故で亡くなった方があるではないか、と言われる方もいるでしょう。たしかにあの事例は原子力産業に特有の放射線による死者ですが、発電所の現場で発生したものではありませんでした。つまり、原子力発電の現場は、他のさまざまな現場に比べても、客観的な安全性においては優れていることはあっても、決して「より危険な」ものではありません。しかし、人々が原子力発電に抱く\*漠然たる不安は、どうしても\*払拭されません。(中略)

安全や危険というのは、ある意味では科学の方法で数量的に評価できる世界です。定量的な方法で表現することができるものです。一例を挙げれば、経済産業省の原子力安全・保安院が、現在の原子力関連施設に航空機が事故で飛び込んで致命的な結果

をもたらす確率を計算して発表したことがあります。一〇〇万年に一回でしたか、もう一桁ひとけた小さかったか、とにかく、そうした確率を計算して示すことができるのが「リスク」であります。それを裏返せば、それだけの安全が確保されている、と言い換えてもよいでしょう。しかし、③ そうした数値が人々に「安心」を与えるか、と云えば、そうはなりません。

そのことは一方ではむしろ合理的です。それはこうしたリスクの評価は、あとで詳しく述べますが確率的に扱あつかわれることと関連しています。例えば、天気予報では降水確率という数値が大事な役割をしています。何々地方の午後三時から六時までに雨の降る確率は四〇パーセントです、といった予報が行われます。さて私がその何々地方の人間で、しかも問題のその時間に外出しなければならぬ、とします。私はどうすればよいのでしょうか。四〇パーセントだけ傘かさを持っていく、ということはできません。私にとつては、傘は持つていくか、持つていかないか、そのどちらか、つまり1もしくは0という判断であつて、統計的な確率の数値は何の意味もないのです。

統計とか確率的な方法に意味があるのは、いわゆる「アンサンブル」つまり多くの事象の集まりに関してであつて、単一の事象に関しては、意味をもたないと考えざるを得ません。もちろん心理的な意味はあるでしょう。慎重な精神的傾向をもった人が、四〇パーセントという数値を聞けば、では傘を持つていこう、という心理になることは十分に考えられます。

④ 大まかな心理の持ち主なら、傘は持たないとも考えられます。

このことはいずれ医療の問題を取り扱うときに再論する機会があると思いますが、医療ではきわめて深刻です。医師が診断し、治療方針を決定するとき、医師の念頭にあるのは、明確に過去の事象（医療の世界では「症例」ということになります）群であり、選択肢せんたくしとなる治療法のそれぞれについての、成功例と失敗例の統計です。そのなかで、最も成功する確率の高い選択肢を選ぶのが、医師の責任でしょう。そのためにも、事象の\*母集団の数は多ければ多いほど、確率計算の\*信憑性しんぴやうせいも高くなるはずですが、しかし、患者にとつては、過去の成功確率は無意味でしょう。自分に対しては、それは成功するか、しないかのどちらかではないのです。仮に医師の知る限りでの知識で、過去に一〇〇例のすべて成功例であつたとしても、なお、この自分に適用されたときに、それが成功例になるかどうかは、判りわかりませんし、成功しない例になつてしまうことは、過去の一〇〇パーセントの数値にかかわらず、必ず可能性としては残ることになります。

### III

患者の立場では、不安が解消されないことには合理的な理由がある、と言わなければなりません。

安全の追求、危険の予知、評価、それに基づく危険除去の方法、こうしたことは、いわゆる\*リスク・マネージメントという分野が関わってきたことであり、それは人間工学などの分野と手を結びながら、それなりに大きな成果を収めてきました。今後も、そうした事態は変わらないでしょう。変わらないどころか、日本では、まだ⑤ そうした分野での徹底した事例集め、分析、評価、対応策の提案というような流れが、なかなか完全に徹底した形で普及しているとは言い難い状況が目に付きます。

その意味では、「安全—危険」という枠組みのなかで、しなければならぬことはまだ沢山あります。けれども、それを達成するだけでは、現代の不安を解消することはできません。不安は、その反対概念である安心も含めて、定量的な扱いから大きくはみ出る世界です。不安を数値で表すことはできませんし、安心の度合いを数値化することも困難です。

実際、現代社会の人々の問題は、すでに欲求の充足からはずれ始めています。かつては、欲求の充足が、人々の心理の中心を占めてきました。今でも「欲しい」もの、「欲しい」ことを探し求める営みが終わったわけではありません。その上、経済活動の側から見れば、人々の欲求、つまり不足の感覚は、無理をしても造り出すべきものと考えられてきました。日本を代表する自動車産業のトップが、需要とは見つけるものではなく、造り出すものだ、と述べたのは、まさしくそうした感覚の発露であったでしょう。

しかし、今人々の心の中心を捉えかけているのは、もはや「不足」ではなくて、「不安」なのではないでしょうか。不足には満足が対応します。そして、不足と満足は、どちらも **A** 概念であるにもかかわらず、ある程度数値化が可能なものです。満足度はしばしば統計的データのなかに登場しますし、不足もまた、色々な\*マーケット・リサーチなどで、定量的なデータとして扱われます。しかし、不安と安心とは、そうした扱いの上に乗る切らない世界でもあります。

私の提唱する「安全学」とは、そうした意味で、「安全—危険」の軸と、「安心—不安」の軸と「満足—不足」というような軸を、総合的に眺めて、問題の解決を図ろうとする試みと理解していただければ幸いです。

(村上陽一郎『安全と安心の科学』より)

※ 問題作成の都合上、文章の一部を省略したところがあります。

(注)

- \* 杞憂きゆう……………古代中国の杞きの国くにの人が、天てんが崩くずれ落おちてきはしないかと氣きに病びんだ人ひとがいるという故こ事じに基きづく語ご。取とり越こし苦く勞らう。
- \* 概念がいねん……………考考え方方。おおまかな内ない容よう。
- \* 顕著けんちやく……………特特別別に目めにつく様よう子し。
- \* サイト……………敷敷地ち・所所在在地ち。
- \* JCOの事故……………一九九九年九月三十日、茨城いばらき県けん那珂郡なかくん東海村とうかいむらにある株式会社JCOの核燃料加工施設で発生した
- \* 漠然ばくぜんたる……………はつきりしないさま。ぼんやりしたさま。
- \* 払拭はつしやく……………きれいにはらいのけること。
- \* 母集団……………調調査査や観観察察の対対象象とする集集団団・全全体体。
- \* 信憑性しんぴやうせい……………信信用用してよい度ど合あい。
- \* リスク・マネージメント……………危危険険を管管理理し、損損失失をさけたり少少なくしたりするようようにすすること。
- \* マーケット・リサーチ……………市市場場調調査査。

問一

- I から III に当てはまる語として適当なものを次から選えび、それぞれ記号で記しなさい。
- ア 一方
  - イ 例れいえば
  - ウ そのうえ
  - エ さて
  - オ したがつて

問二

①「このこと」とはどのようなことですか。文中の言葉を使つかって二十字以上二十五字以内で答こたえなさい。

問三

②「二〇〇四年に起こった美浜事故もまた同様です」とありますが、「美浜事故」はどのような事故と考えられますか。「事故」につながる形で三十字以上三十五字以内で説明しなさい。

問四

③「そうした数値が人々に『安心』を与えるか、たとえば、そうはなりません」とありますが、「そうはならない」のはなぜですか。二十字以上二十五字以内で説明しなさい。

問五

④「大まかな心理の持ち主なら、傘は持たないとも考えられます」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア いい加減な性格であるため、もしも降ったらこの日は運が悪かったと自分でごまかしてしまうから。
- イ おおざっぱな性格で傘を持つのが面倒なため、雨にぬれて歩いた方が気持ちが良いと考えるから。
- ウ 降水確率が五十パーセントに満たないということは、およそ降らない確率の方が高いと計算するから。
- エ 人を信用しない上に細かなことを気にしないので、天気予報という数字はあてにならないと考えるから。

問六

⑤「そうした分野」とありますが、どのような分野を指しますか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 医療の問題
- イ 不安が解消されない患者の立場
- ウ 安全の追求、危険の予知、評価、危険除去の方法
- エ 人間工学などの分野

問七

A

に当てはまる語句として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 合理的な理由のある
- イ 成功確率の高い
- ウ 心理的な側面の強い
- エ 定量的な扱いからはみ出る

問八

この文章で述べられている内容として、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 「安全」に関する問題に対応するには、「安全と危険」、「安心と不安」といった視点を総合的に考察しながら問題を解決することが必要である。
- イ 多くの人が「安心」できる社会を実現するためには「危険」を速やかに予知できる安全システムの考案が不可欠である。
- ウ 現代社会で生じてきた課題である「不安」の解消に取り組むためには、欲求を満足させ、「危険」を取り除く努力をすることが重要である。
- エ 自然災害の巻き起こす「危険」は避けられないが、人工的に引き起こす「危険」はなるべく起こさないうよう我々は注意しなければならない。

二次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

南半球にあるその国は、二つの大きな島で構成されている。北島と南島だ。イギリスの植民地を経て、今は独立国家である。人口より羊が多い、と言われるその国には、アオテアと呼ばれる先住民とヨーロッパからの移民の子孫が共存している。この国が先住民と移民との共存を可能にしているのは、何度かの闘争を経て、ヨーロッパから移住してきた人々が、アオテアの文化を国のもう一つの柱として認めたからである。しかし、アオテアの人々にとつて、それは従来への生き方だけでは生計を立てることが出来ず、移住してきた人々が持ち込んだ生き方を受け入れることを余儀なくされることとなった。

北島の中央部には、地名も含めてアオテアの文化が色濃く残っている。その一角で、コロは観光客を相手に、アオテアの聖地であつた、部族の所有地を公開している。「地獄の扉」と呼ばれるその施設に入るには、アオテアの儀式を行う必要がある。入り口の門の前で、観光客を相手に行う儀式は、しかし、今や観光客に対するパフォーマンスに過ぎなくなっている。コロは思う。（地獄の扉か……。）

イギリスの高名な詩人が、初めてこの地を訪れた時につけた名前を、コロの祖父は、そのまま観光地の名として残してしまつた。いくつかの硫黄泉が点在するこの地は、熱せられた蒸気の煙と硫黄の臭気に満ちている。

（ここは、アオテアが先祖代々受け継いできた聖地だぞ、それを地獄とは……。）  
①コロの心の奥が鈍く痛む。

それでも、この土地のお蔭で、コロの部族は数代、新しい時代を生き延びられた。が、最近、すぐ近くに国営のアオテア文化を伝える、同じような施設が大規模に公開されると、ここに来る観光客の数は激減し、付属の小さな温泉施設を利用する客で細々と生計を立てるくらいで、なんとなくさびれた感じが漂っている。何台も連なった大型観光バスが、この「地獄の扉」の前を通り、その新しい施設の方に向かって走るのを、ただただ見送るしかない日々が多くなつた。

（時の流れに歯止めはかけられん。）  
コロはふつとため息をもらす。



コロの息子夫婦が、ここでの観光事業に、見切りをつけ、別の職を求めて去っていったのは二日前のことだ。息子夫婦の前ですでに何人もの若い世代が、親に子供を預けてこの地を去っていった。この周辺に残された部族の者は、老人と、新しい仕事を探すには遅いコロのような年齢の大人と、そして子供たちだけである。ここは彼らのたまり場にもなっていた。

明日の予定は団体客が一つ、日本からの修学旅行の中学生だ。儀式をどうするか、それは若く逞しい男が行ってこそ見栄えがする。儀式の始まりは、舌を突き出し、眼をむいて相手を威嚇する勇者の踊りである。

「勇者か……」

と、コロはつぶやく。ここにはもう勇者と呼ばれるにふさわしい男はいない。

（俺が踊る？ いやいや、今更俺か？ では、他に誰がいよう？）

勇者の踊りを担ってきた息子がいなくなった今、近くに住む仲間の顔を思い浮かべても、コロにはため息しか出てこない。コロはこししばらく悩んできたその結論に、ふんきりをつけるべき時が来た、と思った。

（相手が中学生ならば、子供でも良いか。今や観光用のパフォーマンスだ。修学旅行生がやって来る時間なら、あいつらも学校から戻っている。それに、子供の勇者の踊りとなれば、今後、大人を相手にする時も、そのかわいさで受け入れられるに違いない。）

その日、部族の子供の中でも年長のポロラニとヘミを呼び出すと、コロは明日の儀式をお前たちにやってもらおうと思うと伝えた。ポロラニは、六年生、少し太り気味だが、上背がある。教室で机に向かっていることよりも、何か面白いことはないかと、常に周囲をきよるきよると探し回る性格だ。一方のヘミは、同じ六年生だが、いつも何かを考えている様子の物静かな少年だ。最近ようやく腕や胸に筋肉がついてきたが、かつてのひよろひよろとした面影は今も残っている。

「もう、勇者の踊りは踊れるだろう？ お前たちのどちらかに引き受けてほしいのだがな。」

コロがそう言うと、ポロラニは言った。

「オレ、勇者の踊りは踊れるよ。でも、あれは、顔が可笑しいって笑われるからね。なんかね。」

確かに、それはそうだ。異なった文化を正面から受け入れるおおらかさを持つのはなかなか難しいことだ。人は、自分たちと

は異なつた文化に対する時、②表面に表れるものしか見ないものだ。ポロラニからヘミに顔を移すと、コロは言った。「ヘミはどうだ？」

コロの視線をまっすぐに受け止めて、ヘミはコロの言葉を深く考えているようだった。しかし、それからヘミは黙つたまま顔をゆっくり横に振つた。それを見て、ポロラニが、

「いくらか小遣こづかいくれるなら、俺、やってもいいよ。どうせ暇ひまだし、それに面白そうだ。」

と言つた。ポロラニにはそんなところがあると、コロは思う。部族が、新しい時代を生き延びるには、③こういう資質ししつが必要なのかもしれない。

「よし、わかつた。明日はお前に踊ってもらおう。」

「オーケー。」

ポロラニは軽い口調で返事をする、もう別のことに興味が移つたのか、軽く手を振ると、部屋から出て行つた。コロは、これでまずは明日の心配からは解放されたと思つた。だが、解放されたという思ひの後ろには、まだこれが最良の解決策であつたのかという迷ひもあつた。

ヘミは立ち上がり、ペこんとコロに頭を下げ、ゆっくりと出口に向かつた。

「これからの、この運営には辻褓つじま合わせをしていかねばならん。時の流れに歯止めはかけられん。そうさ、かけられん。ヘミ、賢かしこいお前にはわかるな。」

④「コロ自身を言いふくめるようになつぶやきに、ヘミは戸口のところまで振り返ると、何か言いたげに唇くちびるを動かした。しかし結局声にはならず、少し寂さびしげに微笑びしょうを浮かべてから、部屋を出て行つた。

「コロ、話があるんだけど。」

その夜、コロの部屋にヘミがやって来た。コロは酒を飲んでいて、空きかけた酒の瓶びんが、まだ陽ひの出ている頃からコロが酒を飲んでいて、明かして来た。心にひつかかることがある時、酒を飲む癖くせがついたのはもうずいぶん前からだ。ヘミはそれを

ちらりと眺め、ちよつと眉をひそめて、それからコロをまっすぐに見た。ヘミは、何かを決意したかのような固い表情を浮かべていた。

「コロ、明日の勇者の踊り。僕に踊らせてほしいんだ。ポロラニではなく、僕に……。」

「どうしたんだ、ヘミ、さつきは踊らないと言っていたのに、何かあったのか？」

と、コロが言うと、ヘミは、またしばらく沈黙した。コロは待った。やがて、ヘミはきつと顔をあげて、口を開いた。

「勇者の踊りは本当の勇者じゃないと踊ってはいけないんだよね。コロ、昔、そう言っていたね。僕は、勇者の踊りは形だけなら踊れる。でも、まだ勇者になってはいけない。僕らが勇者になるにはもう少し時間がかかる。先祖代々の勇者がそうであったように、僕らには知力も体力も、僕らはまだ未熟だ。まだアオテアの培ってきた文化の真の意味を知っているわけじゃない。僕らはまだ学びの途中なんだ。」

そこまで一気に語ると、ヘミは自分の言葉が届いているかどうかを確かめるようコロを見つめた。そうだ、⑤本物のアオテアの勇者になるには幾多の試練を乗り越えねばならない。コロの親父がそうであったように、コロがまたそうであったように。コロは若い日の自分に思いを馳せた。この国は、ヨーロッパからの移住者を受け入れて、アオテアだけの世界ではなくなった。ここで生きていくためには、少しずつの妥協が必要だったのだ。だが、それを、今、目の前にいる少年に話しても何の役に立つか。まっすぐに、正しいことだけを見つめている少年に。

「ポロラニはいい奴だ。でも、僕とは考え方が違う。明日、ポロラニが勇者の踊りを踊るのは、ちよつとした面白さと少しの小遣いのためだ。それはダメだ、そう僕は思う。同じ形だけの勇者の踊りだとしても、面白そうだから、とか小遣いが出るから、というようなことで踊ってはいけないんだ。だから、どうしても僕たちのどちらかが踊らなければならぬのなら、僕が踊る。」

ヘミはアオテアの誇りを思った。未来を信じて太平洋の大海原に小さな船で漕ぎ出した先祖の誇りを。もつと知りたい、もつと学びたい、アオテアのことを。だからヘミは、暇つぶしや小遣い稼ぎのために踊るといふポロラニを認められなかった。

⑥コロは、転がっている酒瓶を見てから、視線をゆっくりヘミの顔に移した。その眼の奥にある静かに燃えるものを見て、コロは自分の心に語る。

(頼めば、この少年は踊ってくれるだろう。踊り終わった時、俺は『へミ、よくやった。』と、少年の肩をポンと叩き、その踊りをねぎらい、明日は無事終わるだろう。そして、へミはこれから何度も俺に頼まれて、勇者の踊りを踊るのだ。だが、それでいいのか？ アオテアを思う心をねじまげて、この少年に何が残るのか？)

コロの心は既に決まっていた。  
「へミ、わかった。お前に踊ってもらおう。」

と、コロが言うと、へミはうなずいた。へミの決意の表情に、コロは若く逞しい勇者のめざめを感じた。

「だが、明日ではない。明日はオレが踊る。お前が踊るのは、お前が一人前の勇者になってからだ。今日から俺は本気でお前を勇者に育てる。悪かったな、お前にはつらい決断をさせてしまった。」

へミの顔はさっと明るくなり、雲が晴れたようだった。コロは久々に、自分の中に力が湧き上がってくるのを感じていた。

(本校国語科教諭による書き下ろし『たなびく雲の下で』)

問一 ——— ①「コロの心の奥が鈍く痛む」とありますが、その原因として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分たちの聖地に「地獄の扉」と命名したイギリスの高名な詩人に対する怒り。
- イ 観光資源とするために「地獄の扉」という詩人の命名をそのまま使う自分たちへの情けなさ。
- ウ 聖地がもたらすはずの幸福を「地獄」という語が汚して苦しい日々を送るやるせなさ。
- エ 「地獄」という語の持つ不気味さのせいで新しい施設に客を取られてしまったいきどおり。

問二

————— a 「た」、————— b 「れる」について、意味や用法が同じものを次から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 昨日は九時に起きた。

イ 赤くぬった三角屋根。

ウ 北海道へは小さなころ行った。

エ 今帰ったところだ。

b 公開されると

ア 行かれるところまで行こう。

イ 桜が咲くと彼のことが思い出される。

ウ 大統領が国民の前で話される。

エ 大した失敗でもないのに友達に笑われる。

### 問三

~~~~~ c 「見切りをつけろ」、~~~~~ d 「ふんぎりをつける」の本文中での意味として適当なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 冷静に状況を見きわめる

イ 思い切って決める

ウ みこみがないと判断する

エ 適当なころあいに決行する

オ とりあえず行動にうつす

カ 希望をあきらめる

### 問四

——— ② 「表面に表れるものしか見ない」とありますが、この場面において、表面に表れないものはどのようなものですか。その説明として適当なものを、次からすべて選び、記号で答えなさい。

ア アオテアの文化を親から子へ、子から孫へと伝えねばならないという信念。

イ 今の自分を形作っている、何代にもわたって生きてきた祖先たちへの敬愛。

ウ 長い年月を通じてアオテアの歴史を受け継いできたことに対する誇り。

エ アオテアの伝統を、意味はわからずともそのまま残していくという意志。

問五

③ 「こういう資質」とありますが、それはボロラニのどのような行動をさしていますか。その内容として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分の生きる目標を、毎日が楽しく過ごせることだけに置いている。

イ 伝統に縛られず、気が進まないことも、自分に価値があれば割り切つてやる。

ウ 自分の行動を損得で判断し、自分が正しくないと思うことでもやる。

エ 力のある者や年長者の言うことは、自分が嫌なことでも素直に従おうとする。

問六

④ 「コロ自身を言いふくめるようなつぶやき」とありますが、この時のコロが考えていたこととして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア その時代の状況に合わせて、伝統も文化も手を加えていくことが大切だ。

イ 将来を見据えた展望を持つことは大事だが、次の一歩が踏み出せない。

ウ 自分たち古い世代にはできないだろうが、若い世代には希望が持てる。

エ 時代の変化に応じて、自分の中のこだわりを捨てるのは仕方がない。

問七

⑤ 「本物のアオテアの勇者く乗り越えねばならない」とありますが、本物のアオテアの勇者になるためには、「逞しい体」を得ると共に、何をする必要があるのですか、本文中の言葉を使って二十字以上二十五字以内で答えなさい。

問八

⑥ 「コロは、くへミの顔に移した」とありますが、この時のコロの心情の変化を、四十字以上五十字以内で説明しなさい。

三 次の①〜⑧の——部のカタカナを漢字になおし、⑨〜⑫の——部の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

- ① 日本美術史のセンモン書を読む。
- ② この虫の名前の由来はシヨセツある。
- ③ リュウイキ面積の広い川。
- ④ 入場行進でキシユを務める。
- ⑤ 二人の間にケンアクな空気が漂う。たよ
- ⑥ 問題をテイキする。
- ⑦ 根気のイる細かい作業だ。
- ⑧ 科学分野でイチジルしい進歩をとげる。
- ⑨ 雑誌の紙面を刷新する。
- ⑩ それは日常茶飯事のことだ。
- ⑪ 彼は経験の少ない素人かれ同然だ。
- ⑫ 熱湯をかけると糸が縮れる。